

令和 7 年度全国学力・学習状況調査結果分析（養父中学校）

◆生徒質問調査

（１）朝食を毎日食べていますか。

【結果】 全国・県数値を上回る。約９割５分以上の生徒が朝食をしっかりと食べている。

（２）毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

【結果】 全国・県数値をやや上回る。約８割３分以上の生徒が規則正しく就寝している。

（３）毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

【結果】 全国・県数値を上回る。約１０割近くの生徒が規則正しく起床している。

（４）あなたの家では主に何語で話していますか。

【結果】 １０割の生徒が日本語で会話。

（５）自分には、よいところがあると思いますか。

【結果】 全国・県数値を上回る。約９割以上が「ある」と回答し、自己肯定感が強い傾向にある。

（６）先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

【結果】 全国・県数値を上回る。約９割２分以上が「教師から認められている」と感じている。

（７）将来の夢や目標を持っていますか。

【結果】 全国・県数値をやや下回る。将来を展望することができない生徒が約３割６分いる。

（８）人が困っているときは、進んで助けていますか。

【結果】 約９割２分以上が「助けている」と回答し、全国・県数値を上回る。人に優しい生徒が多い。

（９）いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

【結果】 全国・県数値を上回る。ほぼ１０割近い生徒がいじめを許さない心を持っている。

（１０）困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

【結果】 約６割以上が「相談できる」と回答しているが、全国・県数値を下回る。

（１１）人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

【結果】 全国・県数値を上回り、ほぼ１０割近い生徒が「役に立ちたい」と回答している。

（１２）学校に行くのは楽しいですか。

【結果】 約９割以上の生徒が「楽しい」と回答しており、全国・県数値を上回る。

（１３）自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

【結果】 約８割以上が「楽しい」と回答しており、全国・県数値をやや上回る。会話を好む傾向あり。

（１４）友達関係に満足していますか。

【結果】 約８割８分以上が満足しているが、全国・県数値をやや下回る。

（１５）普段の生活の中で幸せな気持ちになることはありますか。

【結果】 約９割以上が「幸せな気持ちになる」と回答しており、全国・県数値なみ。

(16) 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

【結果】「できている」「どちらかと言えばできている」が約8割2分以上で全国・県数値を上回る。

(17) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

【結果】2時間以上の生徒が約2割強。全国・県数値を大きく下回る。そのうち、3時間以上勉強している生徒は1割弱にとどまっている。

(18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。（遊びなどの目的に使う場合は除く）

【結果】2時間以上の生徒が約2%。全国・県数値を大きく下回る。ちなみに、3時間以上勉強している生徒は0%。

(19) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

【結果】3時間以上勉強している生徒は全国・県数値を大きく下回る。また、4時間以上という生徒はごくわずか。全体的に家庭学習の時間が短い。

(20) 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか。（オンライン授業含む）

【結果】「教わっていない」が約6割近く。

(21) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（電子図書含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

【結果】約1割7分以上が2時間以上であり、全国・県数値を上回る。

(22) あなたの家にはどれくらいの本がありますか。（雑誌、新聞、教科書は除く）。

【結果】全国・県数値をやや下回る。蔵書数100冊以上が約2割3分である。

(23) 新聞を読んでいますか。

【結果】全国・県数値とともに、ほとんど読まない生徒が大半を占める。「ほぼ毎日読んでいる」、「週に1～3回読んでいる」の養父中学校数値は約7%強程度。

(24) 読書は好きですか。

【結果】約6割の生徒が「好き」「どちらかと言えば好き」と回答しており、全国・県数値と同水準。

(25) これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか。

【結果】「よくしていた」「ときどきしていた」が約8割5分にのぼり、全国・県数値を上回る。

(26) 地域の大人に、授業や放課後などで勉強、スポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。（習い事は除く）

【結果】「よくある」「ときどきある」が全国・県数値をやや上回る。都市部に比べると、地域との結びつきが強い。

(27) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

【結果】「してみたい」「どちらかと言えばしてみたい」が約7割3分であり、全国・県数値なみ。

(28) 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

【結果】「ほぼ毎日」「週3回以上」の数値が約8割5分で全国・県数値を大きく上回る。養父中学校の教員は、活用をよく促している。

(29-1) あなたは、PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成すること（文字・コメントを書くなど）ができますか。

【結果】「できる」「ほぼできる」の数値が8割以上であるが、ほぼ全国・県数値なみ。

(29-2) あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか。

【結果】「とてもそう思う」「そう思う」の数値が約9割4分以上で全国・県数値を上回る。ICT機器の有効利用をさらに進めたい。

(29-3) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか。

【結果】「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒が約5割5分以上で全国・県数値をやや下回る。

(29-4) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか。

【結果】「とてもそう思う」「そう思う」の数値が約8割2分以上で全国・県数値をやや上回る。

(31) 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

【結果】「行っていた」「どちらかといえば行っていた」が約6割。全国数値を上回るものの、この数値はもっと上げる努力を継続したい。県数値は養父中数値より高い。

(32) 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【結果】「取り組んでいた」「どちらかといえば取り組んでいた」が約8割弱で全国数値を上回る。文部科学省が提唱する“主体的な学び”が浸透しつつある。県数値は養父中数値より高い。

(33) 1、2年生のときに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ってきましたか。

【結果】「行ってきた」「どちらかといえば行ってきた」が約8割弱で全国数値を上回る。文部科学省が提唱する“対話的な学び”が浸透しつつある。県数値は養父中数値より高い。

(34) 1、2年生のときに受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていましたか。

【結果】「なっていた」「どちらかといえばなっていた」が約8割弱で全国数値を上回る。文部科学省が提唱する“個別最適な学び”が浸透しつつある。県数値は養父中数値より高い。

(35) 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

【結果】「できている」「どちらかといえばできている」が約8割6分以上でほぼ全国・県数値を上回る。
各教科の授業で話し合い活動の充実が図られている。

(36) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

【結果】「できている」「どちらかといえばできている」が約6割5分で全国・県数値を下回る。これは、「主体的に学習に取り組む態度」のひとつであり、授業の中で“振り返り”と“見通しを持つ”時間をとることが求められる。

(37) 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。

【結果】「生かしている」「どちらかといえば生かしている」が約7割8分で全国・県数値をやや上回る。

(38) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてください。

【結果】「教えてくれる」「どちらかといえば教えてくれる」が約8割3分で全国数値を上回り、県数値なみ。これからも丁寧な指導や対応をこころがけたい。

(39) 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

【結果】「大切にしている」「どちらかといえば大切にしている」が約8割5分であるが、全国・県数値を下回る。集団生活の意義、素晴らしさを体感させたい。

(40) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

【結果】「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」が約8割8分。全国・県数値を上回る。

(41) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めていますか。

【結果】「そうしている」「どちらかといえばそうしている」が約8割8分でほぼ全国・県数値を上回る。特に、「そうしている」は大きく上回る。話し合い活動を重視している成果が出ている。

(42) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。

【結果】「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」が約9割でほぼ全国・県数値を上回る。特に、「取り組んでいる」は大きく上回る。キャリア教育の成果と言える。

(43) 道徳科の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

【結果】「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」が約9割6分で、全国・県数値を上回る。道徳科の授業づくりの研修を進めているので、次年度調査ではさらに期待が持てる。

◆国語 全体平均正答率：全国・県数値なみ（±5.0ポイント以内）

【養父中学校の生徒の特徴と今後の展望等】※本校教員による分析・考察

- 「表現の効果について、根拠を明確にして考える」問題において成果
 - ・小説を題材とした単元において、問いかけや対比といった表現の手法をおさえた授業を行っていることが生かされていると考えられる。
 - 「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える」問題において成果
 - ・文学的文章読解の際に、登場人物の行動を断片的に捉えるだけでなく、物語の展開における役割や作者の意図を推測して内容を読み取る学習を取り入れてきたことが生かされていると考えられる。
 - 「資料をもとに条件に合わせて自分の考えを書く」問題において成果
 - ・書く内容が明確になるように、文章の構成や展開を考えて書くものである。日頃の授業から、根拠を書かせたり言わせたりしている成果ではないか。
 - 全体的に無回答率が低い。記述式問題において、なんとか最後まで書こうという意欲が感じられる。
-
- △「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」問題において課題
 - ・この問題は、自分の考えをもつだけでなく複数の条件を満たしていなければ正答にならない。つまり、知識・技能を活用する実践的な力が問われている設問であるといえる。従って、一問一答式の読み取りだけでなく、根拠を明確にして自分の意見を述べる能力を育てる活動を意識した授業の工夫が必要であると考えられる。
 - △「目的に応じて必要な情報に着目して、内容を解釈する」問題において課題
 - ・本文と資料を見比べながら、必要となる情報を読み取る力が弱い。複数の資料を同時に読み取る能力を育てる活動を意識した授業の工夫が必要であると考えられる。

全国的に「書くこと」に課題があるものの、日頃の指導の成果が見られたのも事実。これからも、作文が苦手な生徒への手立てについてどのように取り組んでいくべきかを模索していきたい。1学期には、文章を推敲する力を養うために、百～二百字程度の文章を書く演習を行った。また、本校では、国語の授業の他に、朝活動の時間を活用して、新聞記事を読んで意見をまとめる「読考書」という活動を進めている。これらの取組も生かして、「書くこと」の力を高めていく指導を継続していきたい。

◆数学 全体平均正答率：全国・県数値を下回る。

【養父中学校の生徒の特徴と今後の展望等】※本校教員による考察・分析

○「外角の大きさを求める」問題において成果

○「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取る」問題において成果

・「知識・技能」は全国・県数値をやや下回る結果であったが、上記の2問は全国・県数値を上回る結果であった。求角問題は繰り返し学習をしている成果と言える。問題8(1)は選択式の問題のため、消法で考えた生徒が多かったのではないかと推測される。また、生活場面に即した内容の問題であり、捉えやすかったのではないかと考えられる。

○生活場面に即した内容の問題で成果が出ている。また、手順の単純な問題において、全国数値より正答率が高くなっている。抽象を取り扱う中学校数学での困り感が窺えると同時に、各単元で活用問題として身近な問題を取り上げてきた成果が出ていると思われる。

○「関数の領域」の問題が、正答率が高かった。これはペア学習を活用して、言葉の意味と式、グラフとそが示すものを行き来する活動が行われているからだと考える。

△証明問題の正答率が極めて低いことが大きな課題。また、無回答率も高い傾向にある。定期テストでは意識的に証明問題や説明問題を出題しているが、無回答率が高い。普段の授業からさらに取り組んでいく必要がある。

△「数と式」領域では、小学校段階の計算でつまづいている生徒が多い。繰り上がりの計算や分数の計算を苦手とする生徒も多い。また、小学校段階の四則計算や分数、小数の理解があまりないまま進級している。基礎基本に立ち返った指導が必要である。

△文字式の意味や数量と文字の関係の理解が浅く、公式の暗記に偏ってしまっている。手続き的理解に偏り、概念的理解が乏しい。つまり、計算のやり方は覚えていても、なぜその操作が必要かという「根拠」が理解できていない。丁寧な指導が必要である。

単元ごとの「知識・技能」の習得に重点を置きすぎず、単元や教科を横断した活用や思考を育てる授業を増やしていきたい。また、授業のユニバーサルデザイン化を進めたい。また、自分のつまづきに気付かず、振り返りの習慣が身に付いていない傾向を感じる。メタ認知能力を高め、自らの学習を分析し、改善する力を高めていく必要がある。数学に関する生徒質問では、授業に対して肯定的な答えが多いが、正答率は平均以下。家庭学習が十分でないことが考えられるので、家庭学習に対する指導を強化しなくてはならない。

◆理科 全体平均正答率：全国・県数値を下回る。

【養父中学校の生徒の特徴と今後の展望等】※本校教員による分析・考察

○「電気回路」に関する問題において成果

- ・教科書に記載されている実験を生徒全員が丁寧に実施したことが、知識の定着に繋がった。ただ実験を行うだけでなく、生徒自身が実験器具に触れ、考察を深め、レポートにまとめるという一連のプロセスが、単なる暗記ではない本質的な理解を促した。特に、班員で協議しながら学習を進めたことが、多様な視点からの考察が生まれ、より深い学びになったと考えられる。

○「地層」に関する問題において成果

- ・動画資料を活用したことは、視覚的に地層の構造や水の流れを理解する上で非常に有効だった。地層に関する練習問題に繰り返し取り組んだことも、重要な要素だった。また、個人や協働学習において、多様なパターンの問題に触れることで、地層の性質と水の流れの関係性を多角的に捉える力が養われ、実際の現象と結びつけて考える力が向上したと考えられる。今回における高正答率には、小学校での地層に関する学習がしっかり定着していたことも大きく寄与していると考えられる。

△「生物の呼吸」「気圧」に関する問題において課題

- ・学習内容が多岐にわたり、一つひとつの内容を深く掘り下げて理解する時間が不足しがちなのが悩みである。これにより、知識を十分に消化しきれず、表面的な理解に留まってしまう可能性がある。協働学習を取り入れた練習問題の実施や復習は、知識の定着に非常に有効だが、限られた授業時間の中で、これらの時間を十分に確保しにくい現状があり、結果として、学んだ内容が定着しきらず、応用力や実践力に繋がりにくい。家庭学習が十分に身につけていない生徒が多いことも大きな課題。予習・復習の習慣がないため、授業内容の理解が不十分なまま次の単元に進んでしまい、学習内容が積みあがっていくにつれて躓きやすいと思う。
- ・宿題が本来の目的を果たせていないことも課題。宿題の出し方やあり方も考えていく必要がある。例えば、自ら考えて取り組むようになるような宿題の作成や全員一律の宿題ではなく、生徒の理解度や習熟度に応じた個別の課題を出すなど検討の余地はある。デジタル教材の活用も検討していきたい。
- ・レポート作成が個人や班員だけのものにならないように、全体で共有したり、考察したりすることのできる機会を設ける。なるべく多くの実験や身近な現象と結びつけ、興味関心を持たせ、主体的に学ぶ生徒を増やしたい。

※全国学力・学習状況調査は、教育活動及び学力の一側面を調査した結果にすぎず、今回の結果が児童生徒の実態、学校教育、家庭教育のすべてを評価しているものではないということを申し添えます。